

本邦欧風鉄橋の創架に関する一資料

寄 書

磯 野 隆 吉*

わが国における欧風鉄橋の嚆矢とされるものは、長崎・浜町の「くろがね橋」である。その創架の年代は、ごく一部では、明治元年(1868年)とされているが、大部分の橋梁変遷史の著作では、明治2年(1869年)架設となっている。最近出版された高名な著者達による近代日本の土木技術史も、その例外でない。

日本の近代橋梁史の巻頭におかれるはずの、「くろがね橋」の架設年代が、諸書によりまちまちなのは、以後の橋梁技術の変遷を論ずる場合、たいへん都合が悪い。そこで、ここにその年代を決定する重要な資料を提示して、その誤りを正したい。

明治元年8月、長崎で創刊された「崎陽雑報」という新聞がある。その第2号(明治元年9月15日開板)のなかにつぎの記事が掲載されている。

去卯年*五月十二日大水ニテ人家數十橋数枚損失セリ今年ニ至リ浜町ノ橋梁鐵製ニ一決シ乃チ製鉄所**ニ於テ製造アリシガ八月一日其工全ク成就ス其堅硬久ニ堪ルノミナラズ形容モ亦頗ル宏麗ナリ但鉄材無ニ因テ未ダ精巧ヲ尽サズト雖モ我邦鉄橋ヲ架スルノ濫觴ナレバ是レヲ記ス

(欄外) 鉄 橋

長十二間余

幅三間半余

注) * 慶応3年のこと。

** 官設長崎製鉄所、現在の三菱重工業KK長崎造船所の前身。

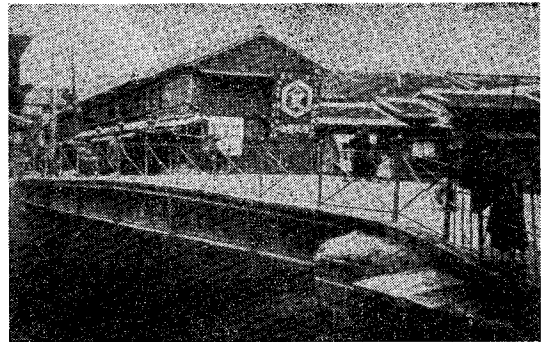
この記事によって、長崎・浜町の「くろがね橋」は、明治元年8月1日に完工したことが明白となった。すなわち、明治2年11月架設の横浜・吉田橋より、約1年先に架設せられたものであって、明治2年架設とする諸書の記載は誤りである。

ここで奇怪なのは、明治工業史土木編のこの橋に関する記載である。同書は、はじめに明治元年架設としながら、別のところでは、明治2年8月架設となっている。この記事が以後の橋梁変遷史に関する諸書を、誤まらした原因となるものではなからうか。

また、この橋の写真は鮮明なものがないので、鉄橋の嚆矢といわれながら、諸書に写真を引用される機会が少くなくない。幸に手元に比較的良好なものがあるので、これも合せかかげて、諸賢のご参考に供したい。

長崎・くろがね橋

(撮影年代は明治末期大正初期と推定される。橋床板の木口が見えているのは、初期の鉄橋に共通した手法を明示していて珍である。橋台の切石積の「しっくい」化粧地は、この橋のすぐ上流にある、有名に眼鏡橋を思わせる)



* 正会員 大阪鉄筋コンクリートKK社長

建設/創造/技術 (写真集) 彰国社発行

定価: 3800円 (〒200円)

内 容: 最近10年間の土木技術の進展はめざましいものがある。戦後、土木工事の機械化にともない工事の進捗は早く、ここ数年の間に黒四ダム、若戸橋、東海道新幹線などの大工事が相ついで完成した。これらの工事の全ぼうを写真および解説でとらえ、立体的にとりまとめたのが本書であり、従来の写真集のイメージを打破した内容は高く評価されている。

論 文: 日本における建設の問題点/高橋 裕・開発と新しい生活の創造/川喜田二郎・土木技術昨日と今日/久野悟郎

写 真: ダム/発電施設/土地造成・団地/農業/災害/河川・海岸/砂防/都市計画・オリンピック施設/上下水道/国鉄・鉄道橋・トンネル/私鉄/地下鉄/特殊鉄道/道路・道路橋/港湾/空港/研究・試験・実験/基礎工・土工・建設機械・材料/測量・その他

展 望: 産業基盤のため建設 ■ 災害に対応する建設/高橋 裕・国造りにおける産業偏重より生活創造への移行・わが国における交通関係施設の現況および課題/鈴木忠義・最近10年間の主要工事リスト

体 裁: A4判 233ページ 箱入上製デラックス造本